

ウェルビーイングが注目される要因・背景

下記図表は、日本における「ウェルビーイング」というキーワードの Google 検索ボリューム（2012 年以降）を示したものであるが、2021 年頃からその数が急速に伸びており、注目度が高まっていることがわかる。本章ではその要因や背景について考えてみる。

1. SDGs との関わり・取り組み

SDGs 達成に取り組む企業が増加していることがウェルビーイングが注目される理由の一つである。SDGs では 17 の目標が掲げられているが、その目標 3 として、「すべての人に健康と福祉を—あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」が定められている。

SDGs は「誰一人取り残すことなく」社会・経済・環境に統合的に取り組むことが前提となっているため、社会から貧困をなくし、経済的に困窮する人をなくすことが求められている。

また「誰一人取り残さない」という理念や、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう—持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバルパートナーシップを活性化する」からもわか

るように、SDGs の考えのベースには「ダイバーシティ（多様性）の尊重」がある。

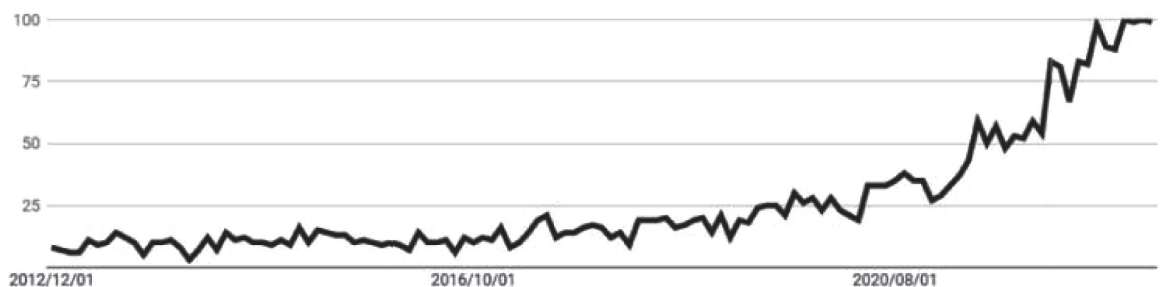
ビジネスにおいては、多様な人材を受け入れることが企業の競争力を高めることにつながるとされるように、今後は様々な価値観を持つ人同士がコミュニケーションを交わす社会となるため、多様化するグローバルなニーズに対応し、それぞれの能力が妨げられることなく発揮できるよう、従業員の幸福感を守るための環境整備や、意識改革などのウェルビーイングへの取り組みが求められている。

2. 経済価値追求型の成長の限界

2021 年の世界経済フォーラムでは、テーマを、現在の社会を構成する金融や社会経済などの様々なシステムを一度すべてリセットし、再構築することを意味する“グレートリセット”としている。これは、効率や売上、利益などの経済指標を優先してきた結果、格差の拡大や地球環境の悪化などの諸問題を招いていることを受け、経済価値の追求による成長の限界を示唆したものだ。

世界経済フォーラム会長のクラウス・シュワブ

■図表 Google での「ウェルビーイング」の検索ボリュームの推移（2012 年～2022 年）



出典：Google トレンド

氏は「人々の幸福を中心とした経済に考え直すべきだ」と述べ、ウェルビーイングの重要性を世界に発信している。

また、経済協力開発機構の「Education2030」の共有ビジョンに「私たちには、全ての学習者が、一人の人間として全人的に成長し、その潜在能力を引き出し、個人、コミュニティ、そして地球のウェルビーイングの上に築かれる、私たちの未来の形成に携わっていくことができるように支えていく責務がある。」との記述があり、これからの教育の在り方について、複雑な社会課題が拡大していく時代へのアプローチとして、ウェルビーイングに価値を置いた新しい進化の必要性を訴えている。

3. 健康経営への関心の高まり

経済産業省が推奨する「健康経営」によって、企業の自社従業員の健康に関する関心が高まっている。

健康経営とは、健康管理を経営的な視点でとらえ、従業員の心身における健康状態に配慮し、職場環境や労働条件等の改善に努めれば、生産力の向上、ひいては企業のパフォーマンスや業績向上につながることを期待する経営手法である。

また、2019年4月より改正労働安全衛生法が施行され、労働時間の状況把握、産業医・産業保健機能の強化などの義務が強化された。これにより、従業員のメンタルヘルス対策の強化が図られたこともウェルビーイングが注目されるきっかけとなった。

4. 働き方改革の推進

改正労働安全衛生法と同時に施行された、働き方改革関連法で旗印とされた「一億総活躍社会」は、

ウェルビーイングの概念を含んでいる。

例えばワーク・ライフ・バランスや正社員と非正規社員の間にある不合理な待遇の差をなくすこと、定年退職後も嘱託や契約社員、業務委託などの形態で働ける環境、リモート勤務をうまく活用しながら子育てや介護と両立して働ける環境などが整備されれば、企業にとって深刻な問題となっている人手の確保につながり、生産性の向上も期待できる。

また、社員にとってもライフスタイルの変化に応じて柔軟に働き続けられる環境をつくることにつながる。

このように、ウェルビーイングを実現するための取り組みが、結果として働き方改革の推進に寄与することが期待できることから注目度が高まっている。

5. 新型コロナウイルス感染症の拡大

2020年より新型コロナウイルスの感染が世界規模で広がり、人との接触が避けられるようになったことで、我々の生活様式は大きく変化した。

ビジネスにおいても、オフィス出社からリモートワークへと移行する企業が増え、ミーティングや商談までもがオンラインで行われるようになった。

しかし、これによりコミュニケーションの難しさから孤独感やストレスを抱える、いわゆる「コロナうつ」になったり、外出自粛の影響によりメンタル不調に陥ったりする人が増えるなど、心身の健康を保つことの重要性がクローズアップされてきた。

このような新たな環境の中でも、心身ともに健康で仕事に専念できる環境を構築するため、企業はウェルビーイングの実現を目指した取り組みを加速させている。